
元凶

和藤渚

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

元凶

【Nコード】

N9949D

【作者名】

和藤渚

【あらすじ】

シャッフル企画・キャラクター原案：イヌズキノネストーリー：
和藤渚とある3人の教師のお話

本編

この学校はどこかおかしい。

喫煙が発覚した生徒を見つければタバコを没収して自分の物にするし、

いじめを発見すればいじめられている人を怒るし……

とにかく全てもが根本的におかしい。

それが、俺が通ってる葉区欧学院^{はくおうがくいん}。

学校の名前からしてもうおかしい。

言っておくがどこかの某マンガ・アニメと名前は似ているが決して
とある執事のコンバットバトルストーリーではないのでお間違いな
く……！

うちの学校はこの地区では有数の名門校と言われ倍率も高い。

もちろん合格すれば鼻も高いし、優越感に入り浸れる。

そして毎年希望と不安に満ち溢れて入ってくる新入生。その顔が歪
んでいくのもそう短くはなかった。少なくとも俺は……

「おら、始めんぞ」

とやる気のなさそうに入ってくる男。

俺のクラスひのぼりわたるの担任、陽上旦のお出ました。担当は体育。

茶髪で髪は短く、日焼けした肌にソフトマッチョ。教師とはとても
思えない風貌である。それがまたイラつく。

「荒木、伊野、浦田……」

頭をポリポリかきながら面倒くさそうに出席をとる。

出席を取り終えると

「えゝ実は笹岡のリコーダーがなくなったそうだ。みんな知らない
か？」

笹岡とはうちのクラスのマドンナ的存在の女の子だ。

「陽上先生！！ 何リコーダーが無くなっただくらいで慌ててるんですか」

わけのわからんやつが来たー！！！！

こいつは霧原雫。3年のクラスを受け持つ美人英語教師（自称）。

肩までかかる長い髪に大粒な瞳、透き通るような真っ白な肌。まあ確かに割と男子生徒に人気があるほうだと思う。

「私のクラスはね井原さんに痴漢にあったのよ！！」

と指を刺して決まったといわんばかりのシタリ顔。

何その顔すっげーム力つくんだけど？ てか何張り合ってるの！！

「え？ あの井原先輩が？」

井原とは3年いやこの学校のアイドル的存在の人。

「そうですか」

とあしらう様に話を進めていく。

そしてものすごい重苦しい空気。

「あれ？ スベツた？ やらなきゃ良かった……だって……」

なにやら小声でぶつぶつと呟いていた。

「陽上先生！！ 霧原先生！！」

また何か変なのがきたー！！！！

金髪に少しリーゼントの髪型に紋付袴の外国人。

なんですか？ あなたは？ どここの荒れた成人式ですか？

この人はビリー・ハンソン。アメリカ人である。

担当はもちろん英語……と思いきやなぜか日本史なのだ。

「リコーダー紛失？ 痴漢？ 二人とも甘いです！！」

なんだ？ もっとむごいことでもされたのか？

「うちのクラスの関根さんは昨日家で右足の小指をテーブルにぶつけて骨折れたんですよ！！」

地味にくるな……それ……

関根は今年の1年の中で人気ガントツ1位で最も井原を脅かす存在。そして関根、笹原、井原は葉区欧学園三大美女として名を轟かせて

いる。

ビリーはというシタリ顔。

だからなんなんだよ！！ その顔！！

「リコーダー紛失なんて軽いもんよ。実はな林の親が昨日……」

え？ 俺？ 俺の親がどうしたって？

「交通事故で……亡くなった」

と涙をこらえてなにかやりきれないという様な言い方で

「そうだったの？」

「可哀想に……」

と泣く2人。

「死んでねえよ！！！！ 何勝手に人の親殺してんだよ！！！！」

ちつと舌打ちをする陽上。

ホントにこいつら殴っていいですか？

お気づきの方も多いかも知れないがこれがこの学校をおかしくしている元凶なのだ。

3人いればなんとやらということわざがあるがこの3人の場合は意味とは程遠い。物事をややこしくするスペシャリストと言っても過言ではない。

「でも服部くんなんか彼女にフラれたショックで自殺したんですよ！！！！」

そんな重いことを自慢げに言うな！！！！

「フィツシュ竹 さんなんかトイレの精になったですよ！！！！」

なんだよ！！！！ パクリじゃねえか！！！！

「みんな目が死んでるんですよ？」

だからパクルナって！！

次々と自分のクラスの生徒の不幸な自慢（捏造も含む）をしていく3人。

「これじゃ埒（らち）が開かないわ。どこが一番ついてないクラスか勝負しましょうよ」

とまた話に変な方向に進んでいく。

てかなんかもらった設定と違ってねえ？

特に霧原が一番原案と違ってる……

てかお前らちゃんと授業しろよ！！！！

「まあ設定なんて後でどうにかなるんじゃないやねえ？」

と言っ陽上。

でたゝ樂觀主義

ナイスだよ？ 陽上先生。

てか俺、心読まれてねえ？ この人エスパー？

「設定なんて……設定なんて……！！！！」

と涙ながらに走っていく霧原。

どうしたの？ 急にどこいくの？

「設定なんて無視して書きたいように書けばいいんだよ」

ビリーは諭すようにそう言った。

ダメだから！！！！ せっかく送ってくれたイヌズキノネコさんに失礼だから！！！！ それにそれだとこの企画の意味無くなっちゃうから！！！！

「いじけるぜ」

設定での口癖をつまく言い換えるなよ！！！！ ボキヤブラ 国か！

！！

本当にすいません……いろんな意味で……

「おい、林？ てか多くね？ どんだけ話を切り替えてんだよ？」
と言っ陽上。

お前だけにはツッコまれたくはなかったよ……

なんかスゲー敗北感を感じたような

てなわけでのクラスがついてないかとまあめちゃくちやどうでも
いい戦いが始まった。

「てなわけで始めました。ウチのクラスついてない選手権」

なに？ この人？ ラビツ 伊東っぱいひとがでてきたんですけど
！！！！

3人もなぜかゼッケンをつけてるし

陽上は赤、霧原は青、ビリーはオレンジである。

TVチャ ピョンですか？これは……

「ではまず第一ラウンドはくじ引きです。これは、トーナメントの
組み合わせを決めているのと同時にどれだけついていないかを競い
ます。」

なんか地味じゃね？ てかなんのトーナメント？

「野球じゃ！！」

そこからともなく現れたのは……誰？

また変なの来たけどもついいや

「なんで野球なんですか？」

「それはな、昔からこういうのは野球で決着つけるってきまってお
るのじゃよ！！」

そうなの？

てかみんななんで俺の心の声が聞こえんだ？

「元校長じゃ」

元ってどういうこと？

「ではここから審査員兼解説の元校長の植草氏も加わってもらいま
す。」

実況の人はやたらと元を強調していた。

「よろしくお願いします」

「まず植草さんは昨日痴漢してつかまっただんですよね？」

そうなの！！！！？

「いや痴漢なんかしてません！！！ ウチの高校の生徒のお尻を触
っただけです。それを見なのにみんな痴漢呼ばわり本当にウンザリ
です！！」

それを痴漢って言うんですよ！！！！ 元校長先生……

「ちなみになんで触っただんですか？」

「いや自分好みの制服がだったから」

なに？ それ！！ それなら女子の制服って校長のシュミだったの！！！！？

「そうじゃな。森君」

「林です！！」

「そうかリンくん」

「はやしです」

「あゝハヤシライス食べたいね？」

こいつ絶対名前覚える気ねゝな……

そう考えると井原先輩が痴漢に遭ったつてのは……

「そうわしじゃ」

と元校長はシタリ顔。

もうツツコム気力もねえよ……

ほんとここにでてるやつって俺らをいや読者をなめてるだろ！！
はあ……

とういうわけでなぜか始まった野球。

俺たちのチームはシードで

まず、ビリーと霧原のクラスが戦うことになる。

霧原のクラスのベンチを見てみるとなぜかテルテルボウズを目にも
留まらぬ

速さで作っている霧原がいた。

「すごいです、1秒に5個つくっています！！！」

すげー！！ あんな速さでテルテルボウズ作れんの！！！？

てかなんでテルテルボウズとかつくってるわけ？

「いや私、こういう時って大体雨降るからこういう得技ができちゃ
つて」

そんな得技要らねえゝよ！！ どんだけ雨女なんだよ！！！！

「仕方ないじゃない。そういう設定なんだから」

もう何も言いません…… 本当にごめんなさいいぬずくのねんb
「謝るならちゃんと謝れよ！！！！ なんで噛んでだよ！！！」

と罵る陽上。

dから……あつすいません。だからなんで俺のココロの音がわかるんだろう？

なんか怖くなってきた

「はい！ 10ポイント」

と実況がいきなり叫びだした。

え？ 試合前に点数入っちゃったよ！！

なにこれ？ 内 プロデュース？

「何としてでもついてない選手権優勝するぞ！！ みんなはじける

！」

「先生……暑苦しいです……」

「なんか異様に汗臭いし……」

燃えているビリーを尻目にやる気のない生徒たち。

そんな中スターティングメンバーが発表された。

明らかに勝ちに行くメンバーである。

しかしひとつ気になることが……

「なんだい？ 林くんいつてみなさい？」

と実況の人が声をかけてきた。

「なんで担任がエースで4番なんですか？ ふつうこいつのって

生徒達がやるものですよね？」

「あ、そのクラスにいる人なら誰でもOKなんです」

「そうなんだ」

「霧原先生？ どうしよう。ビリー先生が試合出てる」

「心配ないわ。ちゃんと秘策はあるから」

冷静に答えた。

（ビリー先生の弱点なんてお見通しよ）

こいつら勝つ気なんだ？

霧原の秘策とは……

「1番 センター 野上さん」

「2番 セカンド 吉本さん」

「3番 ショート……」

「9番 ピッチャー 井原さん」

スターティングメンバーは全て女子。

「全員女子で大丈夫なんですか？」

「大丈夫」

確かに勝負に勝つには弱点を突くのが一番いい。

何を隠そうこのビリー・ハンソンは女性に弱い。

てなわけで堅くなったビリーはポカス力打たれ5回を投げて10失点、2三振で降板。

ビリーはボロボロだった。

「出すには早かったが、俺の秘密兵器だ」

「ビリー監督動きました」

自分の打席で代打をだした。

「4番、ビリーに変わりましたって光源氏」

光源氏！！！？　なんで現世に？　しかも架空の人物なのに……
もしかして……

「ローラースケートでやってきました！！！！　光源氏」

やっぱり……

予想通りのボケで登場しました。突っ込むべきでしょうか？

ここはあえてツッコみません

「おーっとコケました。しかしわざとだよっていう風にシタリ顔。
かつこ悪い！　かつこ悪いです！」

……

光源氏がいってからやる気の無かった生徒は奮起し、追い上げて
8回終わって12-9と霧原のクラスの3点リード。

9回の裏でビリーのクラスが満塁にしたが結局そのまま逃げ切り霧
原のクラスが勝ちあがった。

そして俺たちのクラスとの対決。

陽上が

「1番 サード 末丘^{まっおか}」

「2番 レフト 伊野^{いの}」

「3番 セカンド 白石^{しらいし}」

「4番 ピッチャー 春木^{はるき}」

春木？ 春木って言う人ウチのクラスにいたっけ？

「先生？ 春木ってウチのクラスにましたっけ？」

当然の質問をぶつけて見た。

「あゝ春木代美だけど？」

春木代美ってまさか……

「四ノ宮^{しのみや}学園からヘットハンティングしてきた」

やっぱり

俺は頭を抱えた。

「なに勝手に他の人の作品のキャラクターを登場させてるんですか
！！！ ちゃんと許可とったんですか？」

「なんだ？ 許可って？」

…… たった今、陽上旦という人物は犯罪者になりました。

「春木さんのことです。イヌズキノネコ先生の作品にでてくるキャラクターでしょ？ちゃんとイヌズキ先生に許可とってください」

「許可とらないといけねえか？」

「当たり前だ！！」

「細かいこと気にすんなって」

「気にしろよ！！ コレは立派な犯罪だぞ！！」

「そうなんだ？」

こいつが教師やってることが信じられない

そして春木さんを見るとなんか変なことをやっている

なんだろう？ とりあえず聞いてみた。

「なにやってるんですか？」

「ア二 浜口が考案した笑って健康になる体操」

「あなたもやらない？」

「絶対にやりません」

「なんで？」

「こんな恥ずかしいことできるわけないでしょ!!」

「だって、ほら」

と春木さんが指を刺すほうをみると

みんなやつてるー!!!

春木さんに目を戻すとシタリ顔。

疲れてきた。マジでなんかやたらと長いし、話先進まないし、グダ

グダ感丸出しだし……

いつまで続けんだろう？

ということととりあえずやつと最終ラウンド

一回の表何気がいいピッチングをする春木さん。どちらも無得点。

そんな中やたらと俺たちの試合見ながらにか不安そうにウロウロする人がいた。

それに気づいた霧原は

「どうしたんですか？」

「あの人困ってるっぽいから」と駆け寄る。

「……はどこですか？」

「ここをまっすぐいって右に曲がってください」
道を教えたところでベンチに戻る。

「え〜ん、ママ〜」

「ゴメンね。この子の母親探してくるから後お願い」

おい!! 言いだしっぺが抜けてんじゃねえよ!!

「こんな子供ほつとけないでしょ？」

と子供が通りがかるそれに気づいた霧原は子供の母親を探しに行った。

てか設定にあるからってこれ、無理やりすぎるだろ!!

そしてなんだかんだで試合は進んで0-0で迎えた9回裏2死満塁
カウント2ストライク3ボール

緊張の一瞬……

キンコーンカーンコーン

「チャイム、なったな」

「ああ。もうこんなのもうやめだ。俺が悪かった」

「いいえ？ 陽上先生僕こそ言いすぎました」
なぜか和解成立。

「ところで霧原先生は？」

と陽上が聞くと同時に霧原が泣きながら子供を連れて戻ってきた。

「どうした？ 霧原」

「どうしたんですか？ 霧原さん」

「私……私……この子を育てます！！！」

もうイヤ！！ こんな学校……

キャラクター原案

【キャラクター1】

名前：陽上 旦 ひのぼり わたる

性別：男

長所：挫ける事のない精神、楽観主義

短所：つまらなさそうな顔を見るとイライラしてしまう事、後先考えず行動してしまう事

容姿：茶髪、ショートヘア、日焼けした肌、いい感じに肉付きした体 ソフトマッチョ

特技・性質：彼の行く所は9割方《晴れ》という典型的な晴れ男。

アグレッシブな行動をとるため、身体を動かす事が得意（好き）。

また人をやる気にさせるのも得意である。

【キャラクター2】

名前：霧原 雫 きりはら しずく

性別：女

長所：冷静沈着、困っている人を見るとつい助けたくなくなってしまいう
優しさ

短所：失敗を引きずってしまう事、（小さな声で呟く感じの）独り言が多い事

容姿：肩にかかるくらいまで伸ばした黒髪、真っ白な肌、大粒の瞳
特技・性質：彼女の行く所は9割方《雨》という稀に見る雨女。そのせいで、てるてる坊主を作るのが得意。基本的に手先が器用なので、他にも料理や絵を描くのも得意である。

【キャラクター3】

名前：ビリー

性別：男

長所：熱血漢、己に厳しく他人に優しい所

短所：時々空気が読めない、女性に弱い

容姿：金髪、（軽い感じの）リーゼント、服装のほとんどが袴で時々……甚平？

特技・性質：事を大げさにしてしまう破天荒な人間。口癖は『しびれるぜ』と『はじける！』。外国人でありながら、得意科目は日本史。尊敬する人は“光源氏”だそうだ。

これが原案です。そしてこれがぼくが出したキャラクターです

林・・・この物語の主人公。担任が陽上。ツツコミ役

春木代美・・これは、イヌズキノネコ先生の作品「矢代和樹の多忙なる生活」のヒロインです。ちょっと抜けたところがあってかわいいですよ^^勝手ながら出演させていただきました。

キャラクター原案（後書き）

ということではなかったでしょうか？

いきなりですが反省してます・・・

イヌズキノネコ先生本当に申し訳ございませんでした！！！！

キャラを見てコメディーにしようってのが間違だったのかもしれない。

設定とみんなかけ離れてる上に、代美ちゃんを無許可で勝手に出す始末・・・やりたいことをやりすぎてホントに酷くなってしまいました・・・

本当にもうしわけございませんでした！！！！そして今回楽しく書かせていただきました。本当にありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9949d/>

元凶

2010年10月9日01時25分発行